

令和 5 年度 日上市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日上市立久慈小学校 教諭 大倉 京子

- 1 派遣期日 令和 5 年 12 月 1 日（金）
- 2 派遣先 学校名 中野区立令和小学校
所在地 〒164-0002 東京都中野区新井 4-19-26
<http://nk-reiwa-e.la.coocan.jp/>



- 3 研修内容 第 57 回 関東地区小学校道德教育研究大会 東京大会
- 公開授業（東京都小学校道德教育研究会各部員による授業，学級担任による授業）
- 全体会
- 課題別分科会
- 講演会

演題 よりよく生きるための基盤となる道德性を養う道德教育の推進・充実

講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部

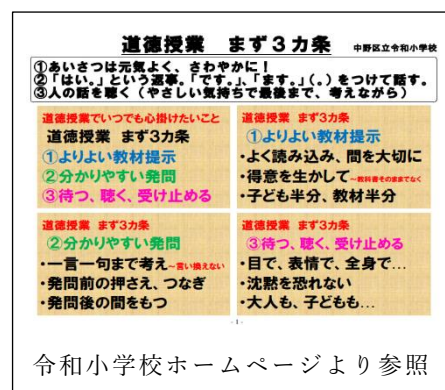
教育課程調査官 堀田 竜次先生

〈公開授業〉

公開授業は，東京都小学校道德教育研究会各部員による授業（担任 TT を含む授業）と，令和小学校の学級担任による全 26 学級一斉の公開授業が行われた。せっかくの機会なのでさまざまな学年の授業を参観したかったのだが，私自身は現在 4 学年担任ということで，4 学年 4 学級の授業を中心に参観した。

1 組の授業は，東京都小学校道德教育研究会に所属している江戸川区立下鎌田東小学校の先生が授業を行い，担任の先生が TT として入っていた。担任の先生が授業を行うのではなく，道德教育研究会に所属している別の学校の先生が授業を行うことに新鮮さを感じた。教室に入ったときに和やかな感じだったので，学級の児童たちと下鎌田東小の先生は初対面ではないような感じがした。おそらく，何度か授業を行っていて関係性ができているのだろう。下鎌田東小の先生は明るく元気で，自分から児童たちに話しかけていたのが印象的であった。本時の授業は「目ざまし時計」という教材だった。まず，児童たちに今までの生活を振り返ってもらい，自分ができていることとできていないことを考えさせていた。児童たちの意見からは「せんたくたみができている，学習の時間が守れている」という声が上がった一方，できていないことで多く上がっていたのは，「ゲームの時間が守れない，宿題ができていない」であった。その部分に先生は「分かる分かる！先生もついゲームやってしまうんだよね。」とすばやく共感しつつ，「どうしたら良いのかな？みんなはどう？何に気を付けたら良い？」と児童たちに問い返しをしていた。先生が理由を問いながら児童たちに問題意識をもたせることで，自分事として捉えやすくなっていたと思う。また，きまりを守っていたときやベッドで目をつむっていたときの主人公の気持ちをイラストや吹き出しを交えて板書をしており，授業の流れが分かりやすかった。中心発問では，きまりを守り続けるためにはどのような気持ちや考えが必要かを児童たちに考えさせていた。児童からは「意識する，スケジュール表を作る，心配をかけないようにする」などいろいろな考えが出てきた。どの場面においても先生は，児童たちが発表をし終え

ると必ず一言褒める・共感する言葉を付け加えたり問い返ししたりしていた。間違っていたらどうしようと挙手を悩んでいた児童に対しては、「道徳に間違いはないから大丈夫だよ、ワークシートに書いてあることをそのまま言ってみたら？」と先生が促したところ、小さな声で発表することができた児童がいた。内容が合っているか自信がなかったようだが、先生やみんなに称賛され、嬉しそうにしていた。授業の最後には授業の最初の自分に対して、学んだことを踏まえてアドバイスする場面があった。数名の児童のワークシートを見ると、「毎日学校の用意を自分でしていてえらいね。これからはゲームの時間を守れると良いね。」や「せんたくものたたみががんばっているね。自分で起きられるようになると良いね。」などを書いていた。なかには、自分ができているところや頑張っているところが見つからずに固まっていた児童に対して先生は「こんなに頑張りたいことが見つかったのはすごいね。」や「〇〇頑張っているの、えらいね。もっと自信をもって。」と授業全体を通して児童を認めつつ、励ましている声かけが多く見られた。最初の頃より最後の方が児童たちの表情も良くなり、意見も出るようになっていたと感じる。2組の授業ではグループでの話し合いを多く行っており、先生が1つ1つの班を回って話を聞いていた。その際に共感したり褒めたりしている場面が多く見られた。3組の授業では先生が子どもたちの意見や考えを持っていたボードに1つ1つメモをし、共感しながら聞いていた。4組の授業は授業の流れが分かりやすい板書が印象的だった。私が参観した時の4年生の授業はICTを活用している授業はなかったが、緊張感のある中でどの学級の児童たちも精一杯集中して取り組んでいたと思う。



〈講演会〉

講師である文部科学省初等中等教育局教科調査官の堀田先生は、「道徳の授業では児童を引き付ける教材提示、ねらいに沿った発問の構成、思考を広げ・深める工夫が必要である。そのためには、先生方が教材分析をしっかりと行える時間の確保が必要であり、児童の実態に合ったねらいを設定しながら、児童が自分事として捉えられる発問の工夫や自己（人間として）の生き方についての考えをもつことのできる授業を設定していくことが必要である。」と述べていた。先生のお話で印象に残ったのはこれからの道徳についてである。1人の主人公の思いや考えだけを考えさせるのではなく、人間理解、他者理解、価値理解を入れた発問を取り入れながら自分との関わりで捉えられるようにしていく。また、自己理解をさせるために自己の生き方について考えを深めるためには、自分自身の問題として受け止め、自分の特徴や伸ばしたい自己を深く見つめることで、これからの生き方の課題を考え、表現していこうとする思いや願いを深めていくことが重要であると思った。

4 感想

令和4年に新校舎へ移転したばかりの新しい学校だったが、本校と似たような環境で生活をしている印象を受けた。さまざまな学年の授業を参観することができなかったのは残念だが、参観することができた先生方の児童とともに授業を作り上げていく姿勢や児童が食いつくような発問、じっくり考えさせる問い返しの仕方、褒め方が印象に残った。学んだことを今後の自分自身の授業に活かしながら、児童とともに思考を広げ深められる授業を作り上げていきたい。